
雪煙

トロワ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪煙

【Nコード】

N2873B

【作者名】

トロワ

【あらすじ】

ある年の暮、喫茶店のバイト仲間で雪山に二泊三日の旅行に出かける事になった5人の男女。楽しいはずの旅行が惨劇の舞台になるとは知りもせずに

FILE 1 旅行計画

寒い　なんて寒いのだろうか　やはり冬という季節は嫌いだ。肌
吹き付ける風は痛みを伴い、雪は体温を低下させ、様々なやる気さ
えも低下させる。

月咲啓二は、雪の降る田んぼ道を一人、最新のウォークマンで音楽
を聴きながら自宅への帰宅している最中だった。レザークートのポ
ケットに手を突っ込み、寒さから逃れようとしているが気休め程度
だ。

吐く息は白く、啓二の周りでは雪を踏み締める音と、風の吹き荒ぶ
音、ウォークマンから流れ出る僅かな音だけだった。
周りに人はおるか、車さえも走行していない。

ネックウォーマーを口元まで上げ、寒いな　と独り言を言っている。

月咲啓二は、現在大学二年生の20歳。
得に不自由のない生活をしている普通の大学生だ。

その日は喫茶店のバイトで朝から夕方までずっと働いていた。
ただ、こんな雪の日に来る客なんて滅多にいないのでこの時期は暇
なバイトだった。12月半ばといえば師走の時期だ。

世の中がなにかと忙しくなり、慌ただしく月日が過ぎていく。
やれクリスマスだ。やれ大晦日だ。やれ正月だ。と、様々なイベン
トが目白押しである。

啓二はその慌ただしさが嫌いだった。

世の中の慌ただしさに合わせるのが面倒臭かった。

そんな時のバイトが暇だった事は、ここ最近の慌ただしさから逃れるのに打ってつけた。
バイト中も一通りの業務をこなしながら啓二は自分なりの安息を得ていた。

そんな時に、今日バイト先のメンバーから旅行に行かないかと誘いを受けた。

啓二のバイト先の喫茶店には、現在バイトで雇われている者が啓二を含め8名いる。男4人、女4人でシフトはローテーションしながらのバイトだ。

今日のバイトは啓二と、啓二のバイトの先輩である立花健^{たちばなけん}。21歳。同じ時期にバイトに入った杉浦真里奈^{すぎのまさと}。20歳。これまたバイトの先輩である伊藤友里奈^{いとうゆりな}。22歳。そして自分より後輩である細川章^{ほそかわしやう}太^{うた}。19歳の計5人だった。

こんな日に客などほとんど来ない事はわかっていたが、今回の旅行の計画をする為に多めに集まっていたようだ。

『最近さ、私達どこも旅行とか行ってないでしょ？だからこの息の詰まりそうな日常から離れて一休みしようって訳！前々から行くねとは言ってたけど、計画までいってなかったからねえ。私、計画倒れは嫌だからさ。』

元気な話し方で見ると明らかに明るい性格の友里奈が人差し指をピンと立ててテーブルに座りながらみんなに話し掛ける。

他4名はバイトの時間も終わり、客用のテーブルに喫茶店の制服姿で座って話を聞いている。

『賛成！俺も夏に友達とキャンプ行ってから旅行行ってないからなあ。この季節だとやっぱりスノーボーするしかないでしょ！？』

章太が片手を上げて友里奈の意見に賛成する。

『俺も旅行には賛成。みんなの意見に合わせるよ。』

眼鏡をかけたいかにもおとなしそうな健も賛成の意を表す。

『私も賛成だよ。久しぶりに旅行行きたいなあ。スノーボーだってやってみたいしね。啓二君はどうするの？モチロン一緒に旅行行くよね？』

真里奈が丸い瞳で啓二を覗き込む。

『ああ、俺も別に異義無しだよ。』

啓二も特に予定がなく、どうせ家でゴロゴロするよりかは、と思いいこの旅行に行くことにした。

『よし、みんな賛成ね。あとの三人はなんか彼氏や彼女と過ごすとかなんとか色々あって来れないらしい。だからメンバーはこの五人で。それでさ、今度の土曜日から月曜までの二泊三日にしようと思っの。』

友里奈がニコニコしながら計画の説明をする。

『それぐらいだったら丁度いいんじゃないか。んで場所はどっする？』

『でしょでしょ！場所は白馬でいいかな？そこだったら隣の県だし、近すぎず遠すぎずで丁度いいと思うのよ。』

『白馬かぁ。行った事ないから楽しみ！土曜日まではまだ日にちがあるからさっそく準備しなきゃね。』

真里奈が紅茶を飲みながら笑顔をもらす。

『よし！じゃあ俺も土曜日に向けて準備しよつと。』
章太が大きな声で喋る。

『月咲君、聞いているのか？さっきからずっと外眺めてるけど』

健が首を傾げて啓二の顔を見る。

『ん？ああ、すまない。話は聞いているよ。俺も白馬は行った事ないから一度は行ってみたかったからな。』

啓二は先程からまた降り始めた雪を眺めていた。
風も微妙に強くなってきている。

その風に雪がまいあげられ、雪煙が見えていた

また帰りは寒くなるんだろうな

啓二はそんな事をぼんやり考えていたのだ。

『じゃあそゆう事で！荷物は各自で確認してね。スノーボードとかはかさばるからスキー場でレンタルでもすればいいでしょ？お菓子とか色々持ってきてね！。』

どうやら面倒臭い事が嫌いなのは友里奈も同じらしい。

『泊まるここはどつするんだい？』

健が眼鏡を上げながら友里奈に質問する。

『ちゃんとメンバー決定したから今日予約入れるよ。実はもう泊まるペンション決めてたんだよね。』

ニヤニヤしながら友里奈が得意気に話す。

『それなら安心だ。じゃあ土曜日までには準備してればいいんだな。車はどうするの?』

啓二が友里奈に質問する。

『車決めてなかったよ!一番デカイ車っていったら、やっぱり啓二君のワゴンでしょ!確か8人乗りだったよね?』

『ああ、8人乗りだよ。てゆうか俺のワゴンで行くのかよ!?』

啓二は免許を取った後、20歳になった記念に父親からこの車を譲ってもらったのである。

まだ2年しか使ってなく、比較的新しい。

『そつだよ。啓二先輩の車が一番大きいんだからそれしかないっしょ!』

調子よく章太が啓二の車を指名する。

『まだ冬用にタイヤ変えてないのに、タイヤ交換面倒臭いなあ。』

啓二が不満を漏らすみんなからタイヤ交換ガンバレだの、一番デカイ車に乗ってる不幸を呪えだのと散々な事を言われる。

『私が明日手伝ってあげるから一緒にタイヤ交換ガンバろうよ。』

真里奈が啓二の肩を叩きながら言う。

『さすが真里奈ちゃん優しいー!』

友里奈が真里奈を茶化して遊んでいる。

『わかった! わかった! タイヤ交換するよ!』

啓二はコーヒを一気に飲み干して言った。

『じゃあそろそろお開きにしようか。俺はこれから用事があるからこれで失礼するよ。』

そう言って健は席を立つ。

『そうだね。長居しちゃマスターにも迷惑だし。お開きだね。』

渋く口ヒゲを伸ばしたマスターは別に構わないよ。と笑っている。

『じゃあみんな今度の土曜日に。』

手を振って健がドアを開ける。ドアについたベルがチリンチリンと音色を鳴らした。

『それじゃ私も帰るよ。色々準備しなきゃなんないし。みんなお菓子とか買ってきてよ。じゃあまた土曜日ね。バイバイ。あ、啓二君はタイヤ交換ガンバってね。』

ニヤニヤ笑いを張りつけて友里奈は喫茶店を後にする。寒い中ジャンパーを着て帰ってゆく友里奈がだんだん小さくなっていった。

『じゃあ先輩方、俺も帰りますよ。ペンションとかで暇になるとあれなんでマンガでも探してきますよ。』
そう言つて章太も喫茶店を出ていった。

『私達も帰ろつか。明日タイヤ交換ガンバろうね!』
真里奈がガッツポーズをして応援してくれる。

『ありがとう。じゃあ明日の昼前に家来てよ。たぶんそれぐらいに始めると思つからさ。』

レザークートを羽織りながら啓二が言う。

『りょくかい!じゃあ10時過ぎに行くね。ついでに昼からは旅行の買い物しようよ。』

『そうだな。ついでに行くか。タイヤ交換してくれるお礼に昼飯もおごるよ。』

『え!?!いいの!?!ありがとう!じゃあ帰ろつか。』

そして二人は喫茶店を後にし、それぞれの家路へと向かつていった。

寒さは益々厳しくなり、体の芯から凍らせる。

そして啓二は無事、自宅へと帰宅した。

『明日はタイヤ交換か。真里奈が手伝ってくれるからいいけどやっぱり面倒臭いな。でもどっちみちいつかはやらなきゃなんねえんだからいいか。』

そんな事を考えながらその日は過ぎていった。

FILE 1 旅行計画（後書き）

まだ序章と云っている所なのでFILE 1にはホラーっぽい場面は皆無です。これからの展開にご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2873b/>

雪煙

2010年10月9日05時26分発行